

1. 指導目標

文章全体を構造的に見ようとするとともに、自分の体や生活のあり方について見直そうとしている。

(関心・意欲・態度)

段落ごとの内容とそのつながり、段落相互の関係に着目しながら読むことができる。

(読むことイ)

文章全体について、段落の役割を理解する。

(言語事項オ(イ))

2. 単元名 段落のつながりに気をつけて読もう

3. 教材名 「かむ」ことの力

4. 単元の評価規準

	国語科への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
第一次	①既習事項を確認しながら「ヤドカリのすみかえ」を正しく読もうとしている。	①段落相互の関係や着目して「ヤドカリのすみかえ」を読み、問いの文と答えの段落を見つけることができる。	①形式段落、指示語、接続語等の既習事項を理解している。
第二次	①「かむ」ことに興味をもち、学習課題に沿って本文を読み進めようとしている。 ②段落どうしのつながりを考えて、文章の全体を見ようとしている。	①中心となる語や文に気付き、段落ごとの要点をまとめることができる。 ②段落相互の関係に注意して、まとまりをとらえることができる。	①「初め」「中」「終わり」という文章構成やそれぞれの役割を理解することができる。
第三次	①段落のまとまりを意識しながら、「かむ」ことのよさを友だちや家族に知ってもらうためのパンフレット作りに進んで取り組もうとしている。	①段落のまとまりを意識しながら、キャッチコピーとして使える語や文を見つけることができる。	①段落のまとまりを意識しながらキャッチコピーを考えることができる。

5. 単元について

(1) 児童の実態

4年生に進級して2ヶ月。これまでに子どもたちは、〈本と出会う、友だちと出会う「三つのお願い」〉で、主人公ノービーの気持ちの変化を読みながら音読をし、1年生に音読発表会をおこなった。また、〈心に残る言葉や表現を見つけよう「白いぼうし」〉では、「車のいろは空のいろ」シリーズの読書につ

なげ、「情景スケッチ」・「松井さんの人柄紹介」・「タクシーのお客さん図かん」という方法でいくつかの物語の内容を紹介しあった。〈伝えたいことをはっきりさせて書こう「新聞記者になろう」〉では、伝えたいことを明確に伝えるために、新聞ではどんな工夫をしているのかを読んできた。

しかし、これまでの学習は、文学的文章を中心に進めてきたため、この『「かむ」ことの力』が、4年生になってはじめての説明的な文章教材となる。

子どもたちは、4年生になったという自覚を持ち、生活面でも学習面でも意欲的に取り組む姿が見られる。授業の発言も、自分の考えについて理由を述べようとする児童も少なくない。また、本が大好きな児童も多く、休み時間ごとに図書室へ通う児童もいる。しかし、個々の児童に目を向けると、読解力の不足から、国語科のみならず、他教科の学習においても困難や抵抗を感じている児童が少なからずいる。国語科の学習においては、読解はおろか、まだ1文字1文字拾い読みをしている児童も見られる。本好きな児童の読書傾向を見ても、ファンタジーや物語に大きく傾いた読書傾向が見られる。

先日行った国語科のアンケート結果を見ると、「国語科を好きあるいはどちらかといえば好き」と感じている児童は14名で、「国語科をきらいあるいはどちらかといえばきらい」の16名とほぼ同数になった。また、「国語の学習を得意あるいはどちらかといえば得意」と感じている児童も16名で、そうではないと感じている児童（14名）とほぼ同数だった。授業をしていても、約半数の児童が中心に学習が進んでいくことが感じられる。ただ、「説明的文章を読んで大事なことを読み取ることができるか。」という問いに関しては、25名の児童が「できるあるいはどちらかといえばできる」と感じており、説明的文章の読みを足がかりに、国語に対して否定的な考えをもつ児童の気持ちを肯定的な方へ少しでも導けるように授業づくりをおこなうことが今年度の課題である。ここでの読みの学習が、これから後、説明的文章教材を読む際のひとつの手がかりとなるので、既習事項を確認しながら、新たに「段落のまとまりに気をつける」力をきちんとつけていきたい。

今回、4年生になって初めての説明的な文章教材ということで、児童の中には「難しい」と感じる子もいるのではないかと思われる。しかし、私たちが生きていく上で、当たり前に行われている「かむ」という自然な動作が、実はこんなにも大切なことだということに気付いてもらいたいと思うし、自分の知ったことや感じたことを、次に家族や友だちに伝えるという活動をゴールに設定することで、少しでも意欲的に読み進めることができたかと願っている。

（２）教材文について

「かむ」ことは、人が生きていく上では欠かすことのできない動作のひとつである。しかし、その動作はあまりにも自然でかつ当たり前すぎて、この行為の大きな力を子どもたちは十分に知らないでいる。その点で、この教材を読むことは、子どもたちの科学的な探究心をくすぐることにつながるだろう。自分自身の生活を見つめなおす一つのきっかけにもなるかもしれない。この単元の読みを通して、新たな気付きや発見が生まれ、読むことは知ることという思いを持ってもらえたらと願っている。

とはいうものの、本単元で最もつけたい力は「目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を考え文章を正しく読むこと」である。内容的なおもしろさはもちろん大切だが、国語科としての力もきちんとつけていく必要がある。

本教材は「初め」→「中」→「終わり」という典型的な説明的文章の構成をもっており、説明的文章の典型を学ぶよい機会となる。また、段落相互のつながりという点では、一つ一つの段落が、「だ液によって飲みこみやすくする」「あごの骨・筋肉などを強くする」「むし歯を防ぐ」「食べ物の量を調節する」「脳の働きを活発にする」——など、一定のまとまりをもちつつ、それらがいくつか集まってさらに大きなまとまり「中１」「中２」を作っている。各段落に書かれている内容を、中心となる内容を読み取ることで理解したり、接続語や指示語、文末表現などを手がかりにしたりしながら大きなまとまり

を考え文章全体を捉えさせていきたい。

そして、最後に、筆者の言いたかったことを考え、自分の考えと比べながら感想をまとめさせる。さらに自分に引き寄せて考え、自分の生活に生かすことで、この文章を読んできた価値を高めさせたい。そのための仕掛けとして、ゴールに、「かむ」ことのよさを家族や友だちに分かりやすく伝えるパンフレット作りをおこなう。文章でまとめることが大変苦手な児童にも、絵や図を用いてまとめられるように支援をしていきたい。

（３）活用力を育むために

本単元で育みたい活用力は「課題に即応した読む能力」である。具体的には４年生なりに「書き手のものの見方、考え方、感じ方などについて、自分の考えをはっきりさせながら理解する力」であり「聞いたり読んだりした内容について、目的に応じて再構成する力」である。

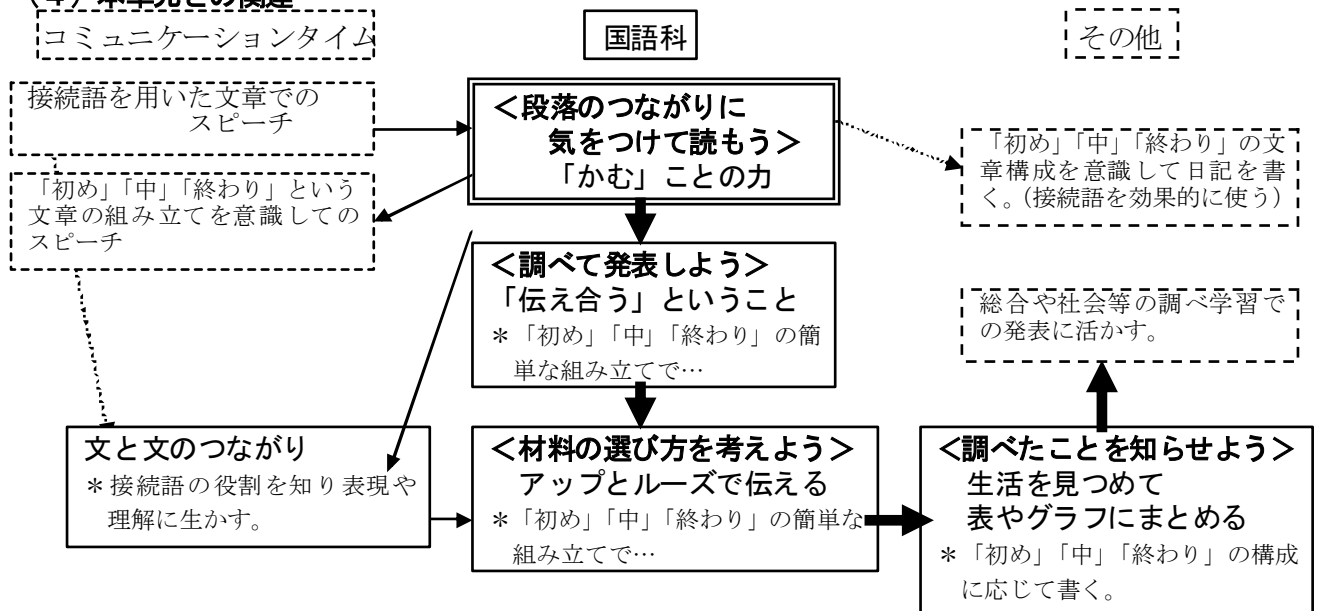
活用力は基礎・基本の定着なくしてはつけられない力だ。その点で言うと、説明的文章の基本的な読み方を理解することが目標である基本単元の本単元で、どこまで活用力をつけられるかは疑問を感じるところだ。本単元で学ぶ「段落のまとまり」を他の説明的文章でも見つけたり、「段落のまとまり」を意識して説明的文章を書いたりすることも活用場といえるかもしれない。

しかし、この教材文を通して考えたことを自分の生活に生かすことが、この教材文を読む価値であることを考えると、筆者が伝えようとした「かむ」ことのよさを、自分なりに理解しその上で自分の考えをもつことが大切だと考えた。そこで本単元で育みたい活用力を上記のように設定した。

本単元では段落構成を学びながら読み進め、最後の活動として、読み取った「かむ」ことのよさを伝えるパンフレット作りをおこなう。はじめは段落のまとまりを意識しながら「かむ」ことのよさを一言で表すキャッチコピー作りをする。そして、そのキャッチコピーを使って、絵や図、補足説明の文を用いたパンフレットの作成をすることにした。教材文での学びを通して考えた「かむ」ことのよさを家族や友だちに伝えるこの活動は、自分の読みを再確認させることにつながるだろう。さらに、友だちの考えた「かむ」ことのよさを聞くことは、自分の学びをさらに広げたり深めたりするのに役立つだろう。

また、「かむ」ことのよさを人に伝えるという目的をもった読みは、子どもたちの意欲を高めるだろうし、自分の考えを簡潔に表現するキャッチコピー作りは、高学年で学ぶ要約にもつながるだろう。さらに、自分の学びを、文章を書くことだけでは表現し切れない児童にとっても、意欲的に取り組むことができる考えた。

（４）本単元との関連



6. 単元の学習計画（15）

	学習のねらい	主な学習活動	主な支援	評価の観点
第一次	説明的文章を学習するにあたり、既習事項の確認をする。	○既習事項の確認をしながら『ヤドカリのすみかえ』を読む。 (1)	・形式段落、問いの文と答えの段落、指示語、接続語について理解できるように解説しながら全員で読む。	関① 読① 言①
第二次	中心となる語や文、段落相互の関係に注意して、文章を正しく読む。	○「かむ」ことのついて知っていることを話し、教材文について興味をもつ。 ○学習計画を立て、学習の見通しをもつ。 ○段落ごとにばらばらにした部分から「問い」の段落を見つけ「かむとはどういうことか」「よくかむとどんないいことがあるのか」という課題を確認する。 ○「まとめ」の段落を確認し、「中」の部分の並び替え、そのように並び替えた根拠を話し合う。 (2)	・題名やリード文から読みの視点をもつ。 ・段落のまとまりに気をつけながら読むことや、この教材文で知ったことや考えたことを誰かに伝える活動を最後に設定することを確認する。 ・はじめに「問い」の段落と「まとめ」の段落を確認し、「中」の部分を接続語や文末表現、指示語に着目しながら並び替えをする。	関①
		○形式段落ごとに要点（よくかむといいこと）をまとめる。 ・いくつかの文からできているかを確認する。 ・一番大切な文を書き出す。 ・その1文を短くまとめる。 (6)	・はじめは全員で確認しながらまとめ、後半は自力でまとめさせていく。	関① 読①
		○段落相互の関係を考え、まとまりを作る。 (1)	・よくかむといいことを体の図を使って視覚的にとらえやすくする。 ・接続語や指示語にも目を向けて、段落相互の関係を考えさせる	関② 読②

		○「初め」「中1」「中2」「終わり」という文章構成やそれぞれの役割を知る。 ・段落のまとまりごとに小見出しをつける。 ・文章構成図を書いて、文章全体のつながりをとらえさせる。 (1)	・文章構成図を書くことで、文章がいくつかのまとまりで構成されていることをさらに理解させる。	読② 言①
		○『「かむ」ことの力』を読んで、自分の体や生活について考えたことを書く。 (1)	・まとめの段落に着目させる。	関①
第三次	学んだことから自分が感じた「かむ」ことのよさをたくさんの人に知ってもらうためのパンフレット作りをおこなう。	○「かむ」ことのよさを家族や友だちに伝えるためのパンフレット作りをする。 ・自分の考えをさらに明確にするために、「かむ」ことのよさをキャッチコピーで表す。 ・キャッチコピーが十分理解されるような補足説明（絵や文）を考える。 ・パンフレットを作成する。 (3)【本時1／3】	・段落のまとまりを意識しながら、自分の考えを再構成できるように、パンフレットの型を準備する。	関① 読① 言①

7. 本時について（第三次 1／3）

（1）目標

段落のまとまりを意識しながら、キャッチコピーとして使える語を見つけることができる。

（読むことイ）

（2）準備

大き目のパンフレットの見本（絵や図などがあり、キャッチコピーのないもの）・ワークシート

（3）展開

	配時	学習活動	評価 (★) と支援 (○)
つかむ	8	1. これまでの学習を振り返り、第三次のめあてを確認する。 ・各段落の要点の確認 ・段落のまとまりの確認 ・段落構成図の確認 「かむ」ことのよさを友だちや家族に知ってもらうためのパンフレットを作ろう。	○教室掲示等を利用して、これまでの学習の振り返りをする。 ○段落のまとまりに気をつけながら、パンフレット作りを確認する。そのために、これまで学習したワークシート等を見てもよいことを伝える。
	10	2. 本時のめあてを確認し、活動をする。 「かむ」ことのよさを、分かりやすく伝えるためのキャッチコピーを作ろう。 ①「中1」のまとまりから作られたキャッチコピーをみんなで検討する。 ・どの段落に書かれている内容かな。 ・「中1」のキャッチコピーとしてふさわしくないものはどれだろう。 ・まとめて書いてあるキャッチコピーはどれかな。 ・パンフレットを見る人に呼びかけるようにしてあるのはどれかな。 * 提示するキャッチコピーの例 * よくかんで食べすぎをふせごう！ よくかむと歯・骨・関節・筋肉が強くなります よくかんで、めざせ！むし歯0！！ しっかりかんで歯の健康を守ろう！	○大き目のキャッチコピーのない絵や図だけのパンフレットを提示し、ここにキャッチコピーを書き入れることを確認する。 ○教師が作ったキャッチコピーを見ながら検討する。 ★段落のまとまりを意識しながら、「中1」のキャッチコピーとしてよいものを見つけることができる。(発言) ○「中2」の内容からもキャッチコピーを作っておき、段落のまとまりを意識させる。 ○文末表現にも目を向けさせ、呼びかけるような文末表現のよさに気付かせる。
深める	15	②「中2」のまとまりから各自がキャッチコピーを作る。 * 児童が作ると予想されるキャッチコピーの例 * ・食べ物の量を調整し、食べ過ぎをふせごう！ ・かむことは体全体の成長や活動にとっても大切だよ！！ ・しっかりかんで脳の動きを活発にしよう！ ・よくかむと学習能力が高まるぞ！	★段落のまとまりを意識しながら、キャッチコピーとして使える語を見つけることができる。(発言・ワークシート) ○本文中からぴったりの言葉を選んだり、自分で言葉を作ったりしてキャッチコピーを作るよう声かけする。 ○どう作ってよいか分からない児童には、これまでにまとめたワークシートを見て、要点を利用して作るとよいことを伝える。

	配時	学習活動	評価（★）と支援（○）
ま と め る	9	③各自が作ったキャッチコピーを紹介しあう。	○「中1」のキャッチコピーを検討したときのことを振り返りながら、発表されたキャッチコピーのよさを見つける。
	2	3. 本時の振り返りをする。 ・ 要点を使ったらうまく作れたよ ・ みんなに呼びかけをするキャッチコピーができたよ。 ・ 「かむ」ことのよさがよくわかったよ。	○キャッチコピーを作る活動を通して、一人一人が自分の読みを再確認できたことを自覚させる。
	1	4. 次時のめあてを確認する	○次回は「中1」のまとまりのキャッチコピーを少しするくわしく説明するための、絵や図、文を考えて書くことを確認する。

（４）板書計画

段落のつながりに気をつけて読もう
 「かむ」ことの力 金田 きよし

「中1」のまとまり

よくかんで食べすぎをふせよう！
 ・ 「中2」のこと
 ・ よくかむと歯・骨・関節・筋肉が強くなります

3 段落目
 ・ 呼びかけた方がいい
 ・ よくかんで、めざせ！むし歯0！

4 段落目
 ・ しっかりとんで歯の健康をまもろう！
 ・ 「中1」のまとまり全部に関係ある。

「中2」のまとまり

児童の作ったキャッチコピーを板書する。

◎ ◎ 各段落の要点を使う
 文の最後は呼びかけるように

.